

平成24年度 まち・きらきらセミナー 第3回概要

平成25年1月11日 18:00～20:00

市民活動ネットワークセンターみさわ 第1・2議室

1. 講師	NPO法人 あおもりNPOサポートセンター 理事長 田中 弘子 氏
2. 内容	<p>○講師による事例紹介</p> <p><u>・東奥日報の別紙1月号のツアーライフを紹介</u></p> <p>東奥日報では定期的に青森県の市町村を紹介している。その中で一番光った内容は、三沢の航空科学館。個人的に家族と訪れたことがあるが、ミス・ビードル号は、子どもにとって、普通の飛行機と違い、夢を与えるものであると感じた。この冊子には三沢の歴史も書かれており、ミス・ビードル号とリンゴの話が載っている。内容は、ビードル号の離陸地として、太平洋に面した長い砂浜の淋代海岸が選ばれ、その時地元の皆さんが、滑走路の整備をしたり、いろんなことをやった。そして、飛び立つときに、お土産にリンゴをあげた。偶然にも、ビードル号を操縦する方のいるところがリンゴの産地であったということで、リンゴが自分たちの想いにつながった。</p> <p><u>・第1弾 きらきらの冊子の紹介</u></p> <p>地元をPRするには、地元をよく知らないといけないということで、その体験を基に第1弾の冊子が作られた。前回のセミナーでこの冊子を紹介したように、食べ歩きをしたことで、いろんな飲食店があることや、洋食店での1時間のランチタイムで、タイやメキシコなど、本場の料理を食べることができて、海外旅行の気分が味わえるという発見があった。そして、地元の100円バスは、市民にあまり知られていないため、自分たちで乗ってみて、バスの良さを伝えた。また、病気になったときに、相談できる場所や集える場所があるだろうかという気持ちから、市内の三沢病院内にある、がん診療相談室や精神保健福祉ボランティアとして活動している団体など、共有し合える場所を冊子に組み込んだ。</p> <p><u>・文化ボランティアについて</u></p> <p>東京で3回、弘前で1回フォーラムを開催し、2006年から2009年まで続けたが、活動が止まってしまう、自分たちは何のために活動をやっていたのかということを考え直した。その結果、継続することが大事だということで、今後の文化ボランティアについて話し合い、外国にいるメンバーの帰省時期に合わせ、毎年年末にフォーラムを開催することになった。</p> <p>○グループワーク（3つの班を作り、三沢の魅力的なところをピックアップしつつ、さらに三沢を元気にするためにはどんな情報が必要か意見を出し合い、共有していく）</p> <p>【グループ ミラクル】</p> <p>三沢は国際色豊かな町なので、英語を活用させる。 マックテレビがあるので、その中で、英会話教室を開き、ジュニアコースとシニアコースで分けて、子どもはゲーム感覚でできればいいと思う。地元の農産物を利用した、3分クッキングをマックテレビで放映す</p> 

る。三沢は、温泉がたくさんあるので、人を呼ぶためにPRする。一方通行（アーケード商店街）が寂しい感じがするので、何かできないか。例えば、飲食店のクーポン券を作るとか、空き店舗を利用してできることを考える。スカイプラザと道の駅は、人の利用が少ないので、魅力を見つけ出して、人が集まるようなことを考える。

～講師からアドバイス～

グループの中に、婚活を企画している方がいるようなので、スカイプラザでそういった企画することもいいと思う。

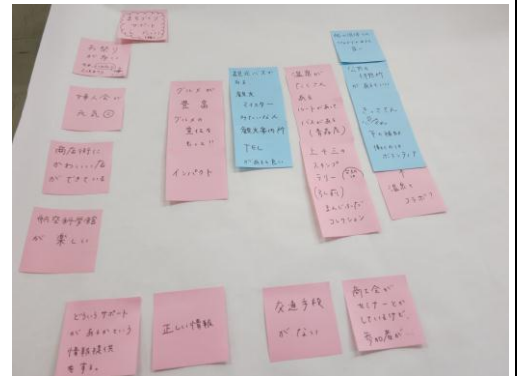
【グループ A (仮)】

三沢の良いところとして、お祭り（七夕、ハロウィン、みさわ祭り）が多い。特にハロウィンは、市外から観光にくるほど魅力がある。婦人会が元気。温泉がたくさんある。航空科学が楽しい。商店街に可愛いお店ができています。

商店街については、お店が出来始めているが、人通りが少なく、交通手段をもっと増やさないといけない。

グルメ（バラ焼き、せんべい汁）が豊富。グルメについては、宣伝が足りなく、近隣の市町村に負けている。公共の休憩所が、商店街の中にあると便利。無料でコーヒーが飲めるような場所や、喫茶店のような集える場所があればいい。市の補助で運営できて、働く人はボランティアの方がいい。観光を発展させるために、市内を500円で回れる観光バスを活用させる。必要なのは観光マイスターみたいに、観光案内所で待っているだけではなく、進んで教えていける人がいればいい。観光案内所がもっと街中にあり、電話して町のことをすぐ聞ける場所があればいい。

全体的なこととして、縦のつながりは濃いけど、横のつながりが薄いので、他の団体との横のつながりが濃くなってくると、いろんなことに発展しやすいと思う。



～講師からのアドバイス～

いろんな意見が出てきて、こういうふうにした方がいいという方向性が見えてきた。今後、できれば意見を絞って、変わるための改善点が出てくれば、もっと深みが増してくると思う。

【グループ B (仮)】

三沢の魅力が少ないところは、商品化がうまくできない。若い力が少ない。お金の落ちる店舗が少ない。店舗が離れていて、一度に買い物ができない。文化に無関心。子どもはあいさつをするが、大人のあいさつが少ない。年間通して売れるお土産がなく、観光客や地元の人を買えるような三沢のお土産といえるものが少ない。

理想として、外国人との交流ができるイベントを増やす。英語を話せる市民を増やす。また三沢に来たい！と思うような町にする。宿泊できるような場所はあるが、知られていないところが多いので、宿泊付の企画があればいい。三沢のPRが



少ないため、もっとPRが必要。

三沢の魅力は、住みやすい。環境として、小川原湖がとても良い。温泉が多い。青森屋の茶室があるのにあまり使用されていないのもったいない。外国人との交流のために使用するなど、有効活用すると良い。食べ物では、三沢の特産品のごぼうとほっき、イカがある。

～講師からのアドバイス～

三沢の特産品が少ないようなので、新たな商品開発も一つの手。温泉は、市外から来た人にとって意識がないので、PRが必要。三沢にいる外国人が買うお土産として、何を買うか調査してみることも大事。

～他グループへの意見～

・マックテレビを通してのPRはとても良いと思う。ちょっとプラスするとしたら、できれば時間を決めて、英語の時間のほかに、高齢者が見るような時間帯に運動の時間にするとか、三沢独自のことができたらいと思う。

・英語が話題に出ていたが、昔、個人的に外国人の親子との交流があり、英語が話せなかったが、外国人の子どもの言葉が聞き取りやすく、話していることが大体わかるようになった。大人と話すより、子どもと話している方が勉強になると思ったので、そういった交流があると、若いお母さん方は勉強になると思う。

～各グループで発表後～

ここまで出た意見を掘り下げて、グループごとに何をまとめていくのか絞っていただく作業をした。

～最後に田中氏より～

グループ名が決まっていないところは、引き続き考えてくる。次回までに確認したいことや資料やパンフレットを集めてみる。情報提供するという事は、間違った情報を伝えてはいけないので、事実確認をすることを宿題とする。

◆閉会◆

◆事務局から連絡事項◆

次回のきらきらセミナーは、2月8日（金）18時から20時までで、市民活動ネットワークセンターみさわで行いますので、よろしく願いいたします。

以上、平成25年1月11日（金）開催の「まち・きらきらセミナー」の概要報告といたします。